

2025年版

# 臨床試験の総括レポート サマリア版

強い向かい風と変革の兆しが共存した一年から読み解く6つのシグナル

## 試験数は減少、成功率は上昇

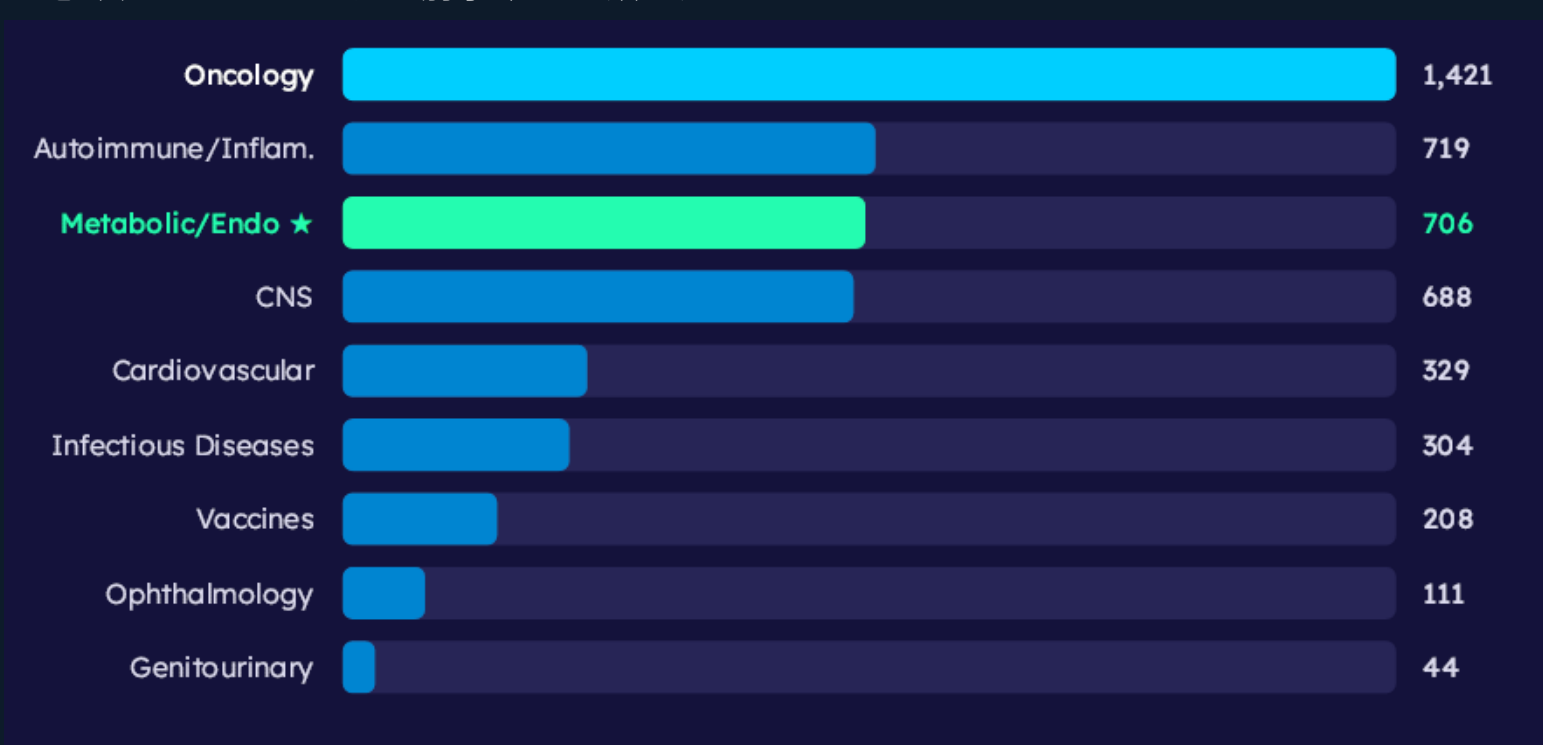
2025年は「量より質」の年：完了試験数は急減しましたが、主要エンドポイントを達成した試験の割合は上昇しました。



治療領域ランキング

## 代謝・内分泌領域がトップ3に初登場

肥満症・2型糖尿病の急増を背景に代謝・内分泌領域が治療領域トップ3入り—感染症はパンデミック前水準まで落ち込む。

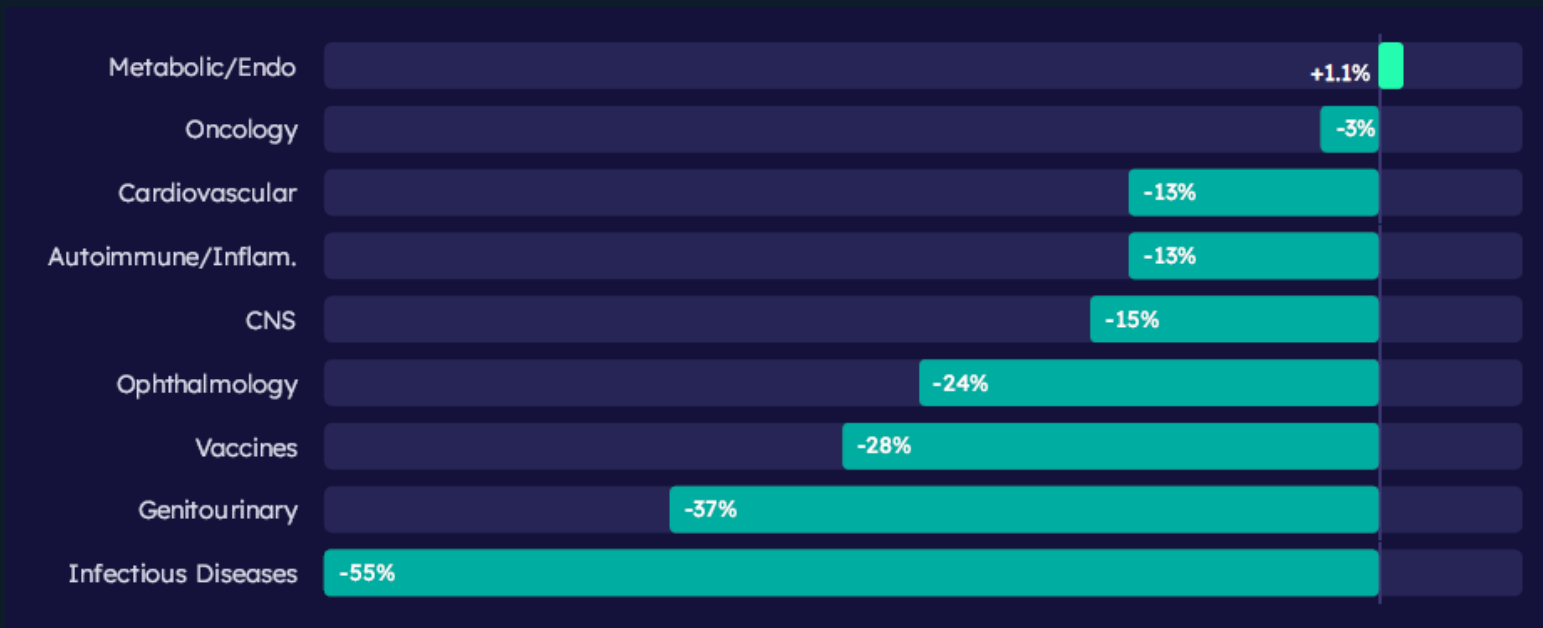


★ 代謝・内分泌領域がCNS（中枢神経系）を超えて、初のトップ3入り

前年比モメンタム

## 成長を維持した治療領域はわずか1つ

4年連続の成長後、9領域中8領域が前年比減少。



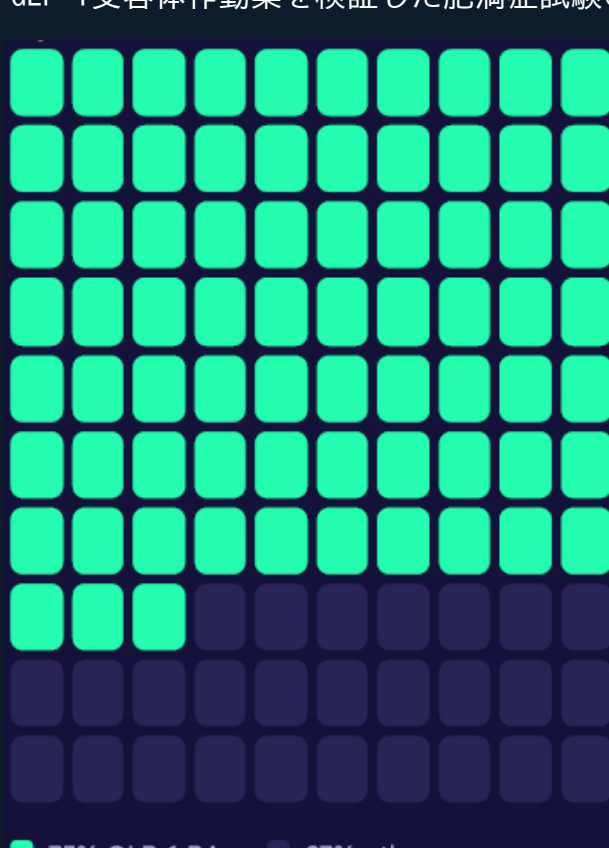
注目疾患

## 肥満症が7ランク急上昇、GLP-1薬が牽引

肥満症は完了試験数で全疾患中9位から2位へ急浮上—184試験、2024年比+59件で、非小細胞肺癌に次ぐ2位を記録。



GLP-1受容体作動薬を検証した肥満症試験の割合



成果の質

## 成功率が全体的に上昇

25件以上の陽性試験を持つ疾患では平均成功率が11ポイント上昇。トップ疾患はさらに良好な結果。



試験を実施しているのは誰か

## グローバルTOP20社以外の製薬企業がより大きなシェアを担う

両グループとも2024年比で減少、ただし比重はその他製薬企業に傾く。

